

小中連携だより

令和4年9月21日（水）

広田小中連携推進会

担当：広田小学校 副校長 丸上 貴司
広田中学校 主幹教諭 前川 勝則



～ 1学期の振り返り～ “初心忘るべからず”

『小中一貫型教育』6年目がスタート

小中一貫型教育の取組が始まった当時、1年生だった子どもたちが、中学校校舎にやってきました。多くの方々のご理解とご尽力により、広田小中学校における小中一貫型教育は6年目に突入しました。コロナ禍の中にあっても、小中一貫型学校としての取組を広田の子どもたちの健全育成につなげていきます。



歓迎式(4/6) 6年生の皆さん、ようこそ中学校校舎へ!



【中学生 生徒代表あいさつ】

【6年代表 児童のあいさつ】

4月7日(木)、6年生(162名(当時))は小学校で始業式及び出発式を行い、新しい学校生活の場となる中学校校舎へ移動しました。そして、顔なじみである中学生のお兄さん、お姉さんや広田中校訓キャラクター「広ちゃんズ」による歓迎式が行われ、新校舎での生活をスタートさせました。中学校代表の副会長の歓迎の言葉に対して、6年生の児童代表が、すばらしいあいさつを返してくれました。

新・6年生と共に、小中一貫型学校の取組をさらに充実させていきます。今後とも、保護者並びに地域の皆様をはじめ、各方面の方々のご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。



入学式(4/8) 新1年生、立派に学校生活をスタート!



【初めての学活】

歓迎式の翌日には入学式が行われ、165名(当時)の新入生が、広田中学校に入学しました。多くは広田中校舎で6年生を過ごした生徒ですが、私服から制服に変わるだけで、大きな成長を感じました。広田中では1年生も『先輩』と呼ばれます。6年生の良き手本として日々成長しています。

～2学期の取り組み～ “交流を学びにつなげる” 厦門外国学校とのオンライン交流会(9/2)

佐世保市と中華人民共和国厦門(アモイ)市は、1983年に友好都市関係を締結し、教育分野における人的交流を深め、国際感覚と知識豊かな人材育成を進めています。平成30年度、厦門外国語学校と広田中学校は5年間の姉妹校提携を結び、平成31年度(令和元年度)以降、交互に受け入れる形をとって日中交流の活動を推進していくことになっていました。

ところが、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、早くも2年目から交流は途絶えてしまいました。そこで、昨年度(3年目)より、小6～中3の児童生徒から国際交流委員を募集し、オンライン(Zoom)による交流に取り組みました。

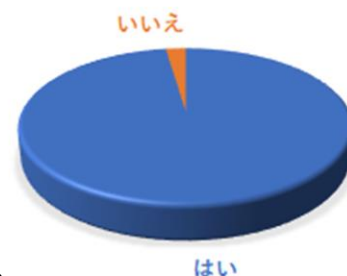


今年度は、52名という予想を大きく上回る児童生徒が国際交流委員に立候補しました。そこで、このオンライン交流会を中国との交流だけで終わらせるのではなく、『6年生と中学生の交流』にもつなげることを目指して、縦割りの10グループを編成し、夏休み前から準備を進めました。

児童生徒一人一人に配られているタブレット端末(Chromebook)を活用し、交流会当日のプレゼンテーションの準備をしたり、グループ全員で集まることができないときはオンラインで打ち合わせをしたりしました。当日は、中学3年生がリーダーシップを発揮し、お互いの文化(伝統行事や祝日)や学校生活について、英語や日本語、ジェスチャーを交えながら楽しく交流を深めることができました。

今回ご支援いただいた、佐世保市文化国際課が実施されたアンケートの一部を紹介します。子どもたちにとって、大変貴重な経験となったようです。

○ この事業への参加をきっかけに、国際交流や海外への関心は深くなりましたか？



○ 今回の交流はいかがでしたか？



○ 今回の交流を今後どのように活かしていきたいですか？

- ・ 交流をしていない人に、中国のことについて教えてあげたい。(小6)
- ・ 今回の交流で、コミュニケーションをとるのは難しいことだとわかったので、学校生活でも人と関わるときに、気をつけていこうと思いました。(中1)
- ・ もっと英語を勉強したい。他国の文化について興味を持ち、調べる。(中2)
- ・ 今回活用できなかった、日本語で考える力、英語で話す力をもっと付けていきたい。(中3)